

MLP  
Monthly

2019年11月の

## MLPの動きをザックリご紹介

MLP マンスリー

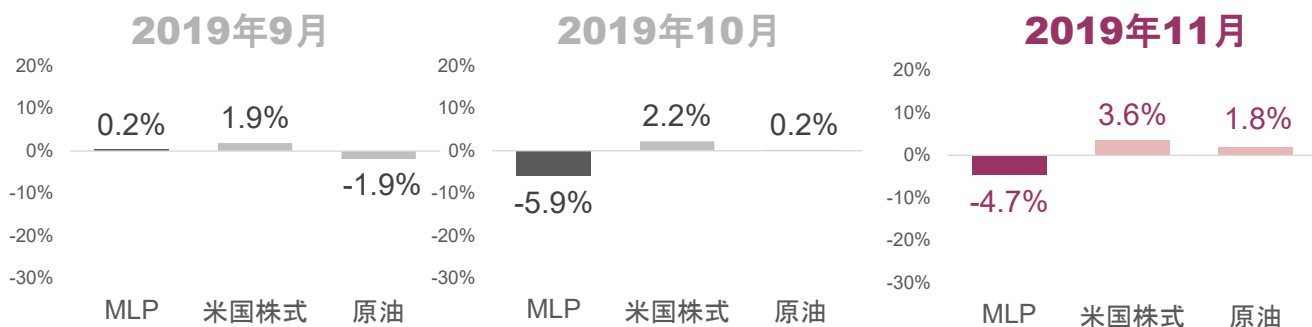
nikko am  
fund academy

## ■ 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

11月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-4.7%と2カ月連続の下落となりました。

月初は、10月の米雇用統計において雇用者数の伸びが市場予想を上回ったことや米中の「第1段階」の合意文書署名への期待の高まりを背景に、米国株式および原油価格が上昇する中、MLPも堅調となりました。しかしながら、その後は、米10年国債利回りの上昇などを受け、利回り資産であるMLPは、REITなどとともに下落に転じました。月末にかけては、天然ガスや原油価格の下落がMLPの下押し要因となりました。

## ■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



## ■ 主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/11/29	2019/10/31	2019/8/31	2018/12/31	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,114.68	4,315.68	4,573.97	4,047.51	-4.7%	-10.0%	1.7%
プライスリターン	1,188.16	1,261.36	1,350.32	1,268.20	-5.8%	-12.0%	-6.3%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	6,361.56	6,138.73	5,898.23	4,984.22	3.6%	7.9%	27.6%
プライスリターン	3,140.98	3,037.56	2,926.46	2,506.85	3.4%	7.3%	25.3%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	798.46	784.20	773.39	757.14	1.8%	3.2%	5.5%
プライスリターン	431.37	426.66	422.09	424.07	1.1%	2.2%	1.7%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,491.86	1,514.74	1,452.04	1,190.35	-1.5%	2.7%	25.3%
プライスリターン	349.74	356.01	343.65	288.67	-1.8%	1.8%	21.2%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA Merrill Lynch・米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,382.25	1,378.72	1,371.18	1,233.61	0.3%	0.8%	12.0%
プライスリターン	75.92	76.11	76.48	71.75	-0.2%	-0.7%	5.8%
<b>米国10年国債利回り</b>	1.77%	1.69%	1.49%	2.68%	0.08	0.28	-0.91
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>	55.17	54.18	55.10	45.41	1.8%	0.1%	21.5%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>	2.28	2.63	2.29	2.94	-13.4%	-0.2%	-22.4%
<b>米ドル(対円)</b>	109.49	108.03	106.28	109.69	1.4%	3.0%	-0.2%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■当月の出来事いろいろ

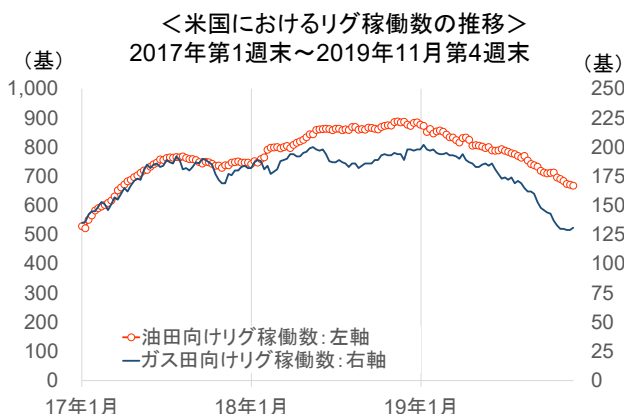
- ・ 初旬に発表された米雇用統計において雇用者数の伸びが市場予想を上回ったこと、そして、中旬に発表された小売売上高も市場予想を上回ったほか、米小売大手から好調な内容の決算が発表されるなど個人消費の力強さが確認されたことから、米国株式市場の上昇が目立つ状況となった。S&P500種、NYダウ工業株30種、ナスダック総合の主要3指数はいずれも史上最高値の更新を続けた。
- ・ 米10年国債利回りは、月初は上昇基調となり、11月8日に2%に迫る水準となったものの、その後、米中協議の難航が伝えられたことなどを受け低下基調となった。ただし、月末にかけては、米中首脳から前向きな発言が相次いだことなどもあり、レンジ内での推移となった。
- ・ 原油価格については、投資家心理の改善を背景に、月を通して緩やかな上昇基調となった。ただし、19日は、ロシアが原油の協調減産の継続には前向きなものの減産拡大には消極的、と伝えられたことを受け、WTI原油先物価格が前日比-3.2%、29日は、OPEC(石油輸出国機構)加盟国と非加盟産油国が一段の減産に動かない可能性が示唆されたことが嫌気され、同一-5.1%とそれぞれ大きく下落した。
- ・ 天然ガスの価格については、月初は上昇したものの、その後は下落基調となった。今後の気温予想が引き上げられたほか、暖房需要予測の下方修正の影響などにより、天然ガス先物価格が、25日と26日に大きく下落した。また、祝日明けの29日も天然ガス先物価格は前日比-8.8%と大幅下落となった。
- ・ 個別材料に乏しい中、米投資家などによる年末特有の節税対策の売りなどもMLPの下落圧力となった模様。

## ■今後の注目点

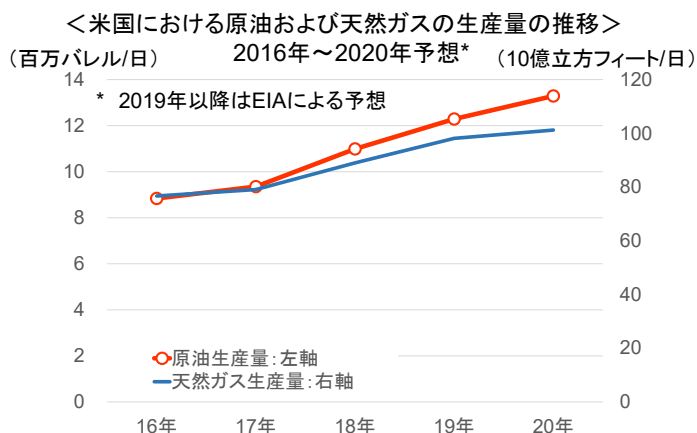
- ・ 12月5日のOPEC総会、6日のOPECプラスの会合において、来年3月末に期限を迎える現行の原油の協調減産が延長されるかどうか注目される。
- ・ 世界景気の減速懸念が原油の需要見通しの重石となっていることから、原油価格の動向を捉える意味でも米中の協議進展や景気の動向が注目される。

## ■米国における原油と天然ガスの生産量

油田・ガス田向けリグ稼働数は、2019年に入り減少傾向となっています。生産技術の向上により、1リグ当たりの生産量は増えており、生産量全体は増加基調であるものの、この先のリグ稼働数の減少度合いによっては、生産量全体にも影響が生じることも想定されます。



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)



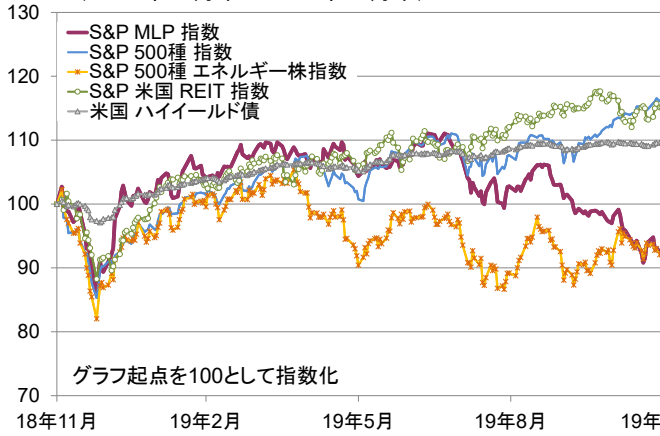
(出所: EIA「Short-Term Energy Outlook, November 2019」)

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

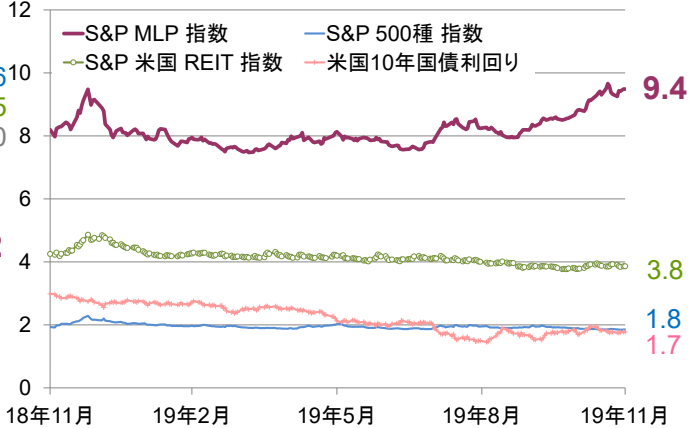
■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2018年11月末～2019年11月末)



## ■各資産の利回り

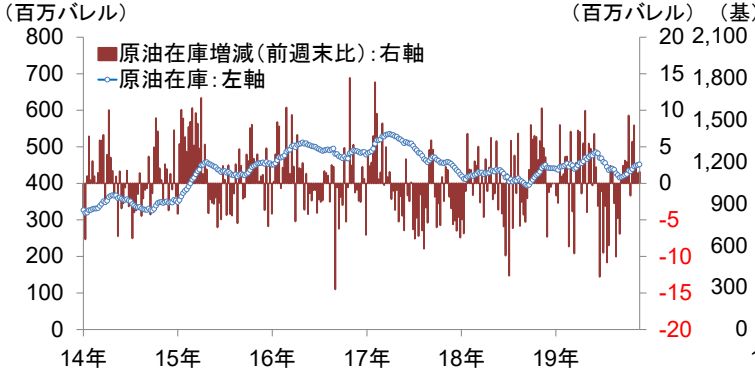
(%) (2018年11月末～2019年11月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

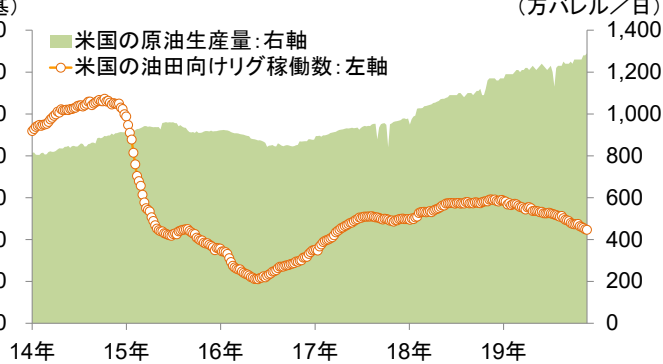
## ■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年11月第3週末)



## ■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

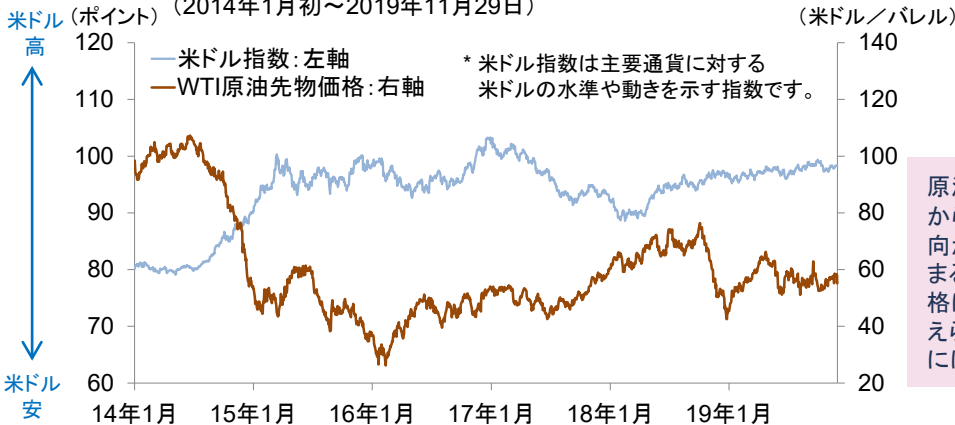
(2014年1月第1週末～2019年11月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

## ■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2019年11月29日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。